



八潮運輸株式会社 2020年 運輸安全マネージメント

2020.1.1

1.輸送の安全に関する基本方針

①八潮運輸の安全方針「安全は全てに優先する」

自社の乗務員、交通パートナーが、事故により尊い命を落とす事が無いよう、怪我する事がないように「安全は全てに優先する」を励行する。

②輸送の安全を確保するため、安全に関する取組みを定め、PDCAマネジメントで取組みをしっかりと実施する。また、創意工夫によりPDCAサイクルがスパイラルアップするような取組みを行う。

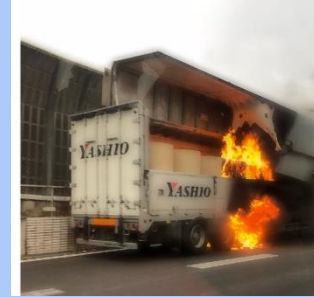
③改善基準告示遵守にむけて、運行管理者・乗務員に対する教育をしっかりと行い、拘束時間管理を徹底する。

④輸送の安全に関する情報等については積極的に公表する。

2.安全に関する目標

	2019年		2020年
	目標	成績	目標
人身事故	0件		0件
労災事故	0件		0件
物損事故	6件		6件
無事故継続日数	100日		100日
自動車事故報告規則第2条に該当する事故	0件	1件 (詳細次ページ)	0件

自動車事故報告規則第2条に 該当する事故報告



日時: 2019年2月11日 15:40頃

場所: 外環道内回り(西方面へ走行)大泉出口付近

状況:

大泉出口1km程度手前のトンネル内を走行中に、トレーラ台車右側最前部のタイヤがバーストした。(後方より大きな音がして乗務員が気付く)トンネル内で停車する事は危険と判断し、トンネルを出た所で車両を左側へ停車させたところ、火の手が上がった。消火ができずに119番通報して消防に火災を報告した。

トラクターヘッドを台切りヘッドへの延焼は防いだが、トレーラは全焼した。

消防による消火活動、道路公団による全焼したトレーラの撤去活動の間、およそ11時間外環道の通行止め規制がされた。

事故原因:

駐車ブレーキ系の不具合により、走行中に駐車ブレーキが効いた状態となり、ブレーキ及びブレーキドラムが過熱しバーストし火災に至った。

駐車ブレーキが誤作動した原因はPCバルブの不具合と考えられる。

(駐車ブレーキを作動させる「スプリングチャンバー」は定期的に交換していたが、スプリングチャンバーにエアーを供給するPCバルブ(プレッシャーコントロールバルブ)は新車から13年間交換していなかった)

再発防止策: PCバルブの定期交換

3.輸送の安全の為に過去行った取組み

項目	内容
運行管理	2002年 デジタルタコグラフ 全車に装着(矢崎製デジタルタコグラフ) 2004年 出発帰庫時の対面点呼完全実施 2006年 ドライブレコーダー 全車に装着(堀場アイテック製ドライブレコーダー) 2006年 アルコールチェックの完全実施(東海電子製アルコールチェッカー導入) 2011年 デジタコ・ドラレコの更新(矢崎製 常時録画のドラレコにより事故・ヒヤリ時の映像完全抽出) 2013年 改善基準告示に即した拘束時間把握の実施 2017年 IT点呼機器を更新 2019年 乗務員拘束時間把握クラウド型システム導入(ロジ勤怠)
教育	2006年 年始に全体安全会議を開催(2011年より外部講師による安全講義も取り入れる) 2012年 年7回の乗務員教育を確立(12項目の安全教育を実施) 2012年 デジタコ・ドラレコを活用した個別指導実施 2017年 新人乗務員への特別教育の改変
設備	2007年 バックアイカメラの全車装着(海コン車両を除く) 2011年 中柱一体型アオリの導入(中柱の脱着作業を無くす) 2012年 ボルボ車両のミラーステー改造(ミラーの死角事故を減らす) 2015年 ウィング車両のウィング開放インターロック装置導入(ウィングを開放したままの走行事故撲滅) 2017年 平ボデー車を無くす(全車両ウィング車にして、シート掛け作業時の労災撲滅)
その他	1992年 無事故表彰制度の導入 2001年 家族参加型の無事故表彰式・懇親会の開催 2004年 グリーン経営認証 取得 2006年 安全性優良事業所(Gマーク)認定 2012年 管理者による職場パトロールの実施 2017年 車庫監視カメラ設置(不審者の侵入を防止) 2017年 始業前点検完全実施システムの導入

4.2019年 輸送の安全に関する取組み・総括

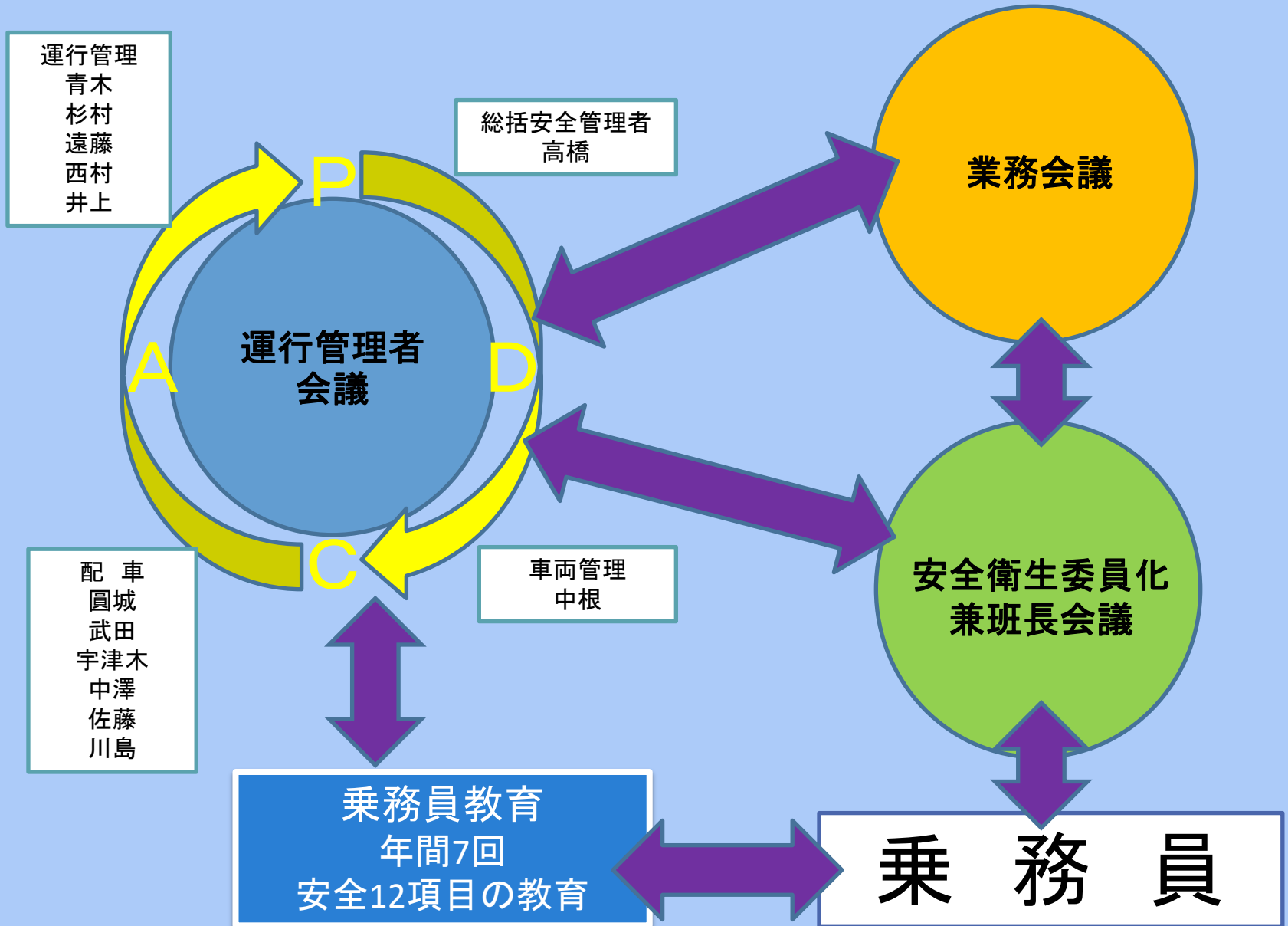
取組み	総括
①日常点検の強化 ・日常点検に関する教育を実施し、始業前点検を完全実施する ・ドライブレコーダーで始業前点検をきちんとしているか抜き打ちチェックする	出発前の日常点検時のタイヤ打検が実施されているかをドライブレコーダーで確認したが、未実施者が確認された。タイヤ脱輪の危険性を周知して、必ず実施されるように継続指導をしていく。
②輸送安全の個人指導 ・1回/月の個人指導を行い、目標達成を目指す	1ヶ月に1回個人指導を実施する計画を立てたが完全実施に至らなかった。類似事故も多く発生しており、個人指導で類似事故撲滅を図るような取組み強化をする必要がある。
③外部の安全講習会への参加 ・5名/年 参加する	外部の安全講習会へ7名参加したが、事故の削減に繋がっていない。外部の安全講習会の活用の仕方を再検討する。
④新人ドライバーへの指導 ・指導ドライバーの育成 ・ワンマン乗務前後のフォロー	新人ドライバーをどのように教育すれば良いか？が確立されていない。教育するドライバーによって教育内容に偏りが無いようにマニュアルを作成して指導ドライバーのレベルアップを図る。
⑤運転記録証明書の取得	全従業員の証明書を取得。来年以降も継続して取得する。
⑥安全パトロールの実施	週に1回、工場内のパトロールを実施。工場内で大きなルール違反は発見されなかった。引き続きパトロールを実施していく。
⑦安全会議の充実化	2カ月に1回の安全会議にマンネリが見られる。講師となる管理者がより分かり易い教育を出来る様にレベルアップする事が必要。
⑧事故後の対応	類似事故の再発防止に活かせていない
⑨改善基準告示遵守	「乗務員への改善基準の周知」「徹底、ロジ勤怠システム導入によりリアルタイムでの拘束時間管理」を行い改善基準順守が進んだが、完全順守には至っていない。

5.2020年 輸送の安全に関する取組み

取組み	担当者・狙い
<p>①運行管理体制の強化</p> <ul style="list-style-type: none">・運行管理体制をしっかりと確立し、責任者のもと事故撲滅を進める・運行管理者に対する教育(外部コンサルタントによる)を行い、運行管理者のレベルアップを図る	<p>担当者:青木</p> <ul style="list-style-type: none">・責任者の明確化、責任者中心に事故撲滅する体制を構築する・運行管理者のレベルアップのため、外部コンサルタントの教育を受ける
<p>②日常点検の強化</p> <ul style="list-style-type: none">・日常点検に関する教育を実施し、始業前点検を完全実施する・ドライブレコーダーで始業前点検をきちんとしているか抜き打ちチェックする	<p>担当者:中根</p> <p>ドライブレコーダーで日常点検が適正にされているか?を確認し、確実な日常点検の励行を実現する</p>
<p>③輸送安全の個人指導</p> <ul style="list-style-type: none">・1回/月の個人指導を行い、目標達成を目指す	<p>担当者:青木(杉村、遠藤)</p> <p>運行管理責任者を明確化し、月ごとにしっかりと個人指導を実施する事で類似事故の撲滅を目指す</p>
<p>④新人ドライバーへの指導</p> <ul style="list-style-type: none">・指導ドライバーの育成・ワンマン乗務前後のフォロー	<p>担当者:高橋</p> <p>新人を教育するドライバーに対して、教育するポイント等をマニュアル化して教育者ごとに指導内容がばらつかないようにする</p>
<p>⑤安全パトロールの実施</p>	<p>ルール違反がないかの確認</p>
<p>⑥安全会議の充実化</p> <ul style="list-style-type: none">・乗務員教育(安全12項目)の充実・運行管理者会議・安全衛生委員会(班長会議)をそれぞれ1回/月開催する	<ul style="list-style-type: none">・乗務員教育の担当となった者は事前準備をしっかりと行い、分かりやすい教育を実施する・運行管理者会議で運輸安全マネジメントのPDCAをしっかりと回す。またその内容をしっかりと班長に落とし、従業員の意見も取り入れる。
<p>⑦事故後の対応</p>	<p>事故後に速やかに事故対策会議を実施し、原因・再発防止策を把握する。</p> <p>類似事故が多発している状況を鑑みて、運行管理責任者を中心に乗務員に事故(状況・原因・対策)を周知する。</p>
<p>⑧改善基準告示遵守</p>	<ul style="list-style-type: none">・乗務員への改善基準の理解を深めさせる・勤怠管理システムの活用によりリアルタイムでの拘束時間管理を行い、改善基準順守を進める

上記取組みがしっかりとされているかを月に1回の運行管理者会議で確認する

6. 運輸安全マネジメントの回し方



7.安全12項目の教育予定

項目	1月	2月	4月	6月	8月	10月	12月
担当		高橋	中根	金原・圓城 武田・青木	中根	圓城	高橋
①トラックを運転する場合の心構え		○					
②トラックの運行の安全を確保する為に遵守すべき基本事項		○	○				
③トラックの構造上の特性		○					
④貨物の正しい積載方法				○			
⑤過積載の危険性				○			
⑥危険物 省略							
⑦適切な運行経路及び当該経路における道路及び交通状況					○		
⑧危険の予測及び回避(KYT)		○	○	○	○		
⑨運転者の運転特性に応じた安全運転						○	
⑩交通事故に関わる運転者の生理的及び心理的要因及びこれらへの対処方法					○		
⑪健康管理の重要性							○
⑫運転支援装置を使用した適切な運転方式			○				